

令和三年五月三十日(日)

天地金乃神御大祭

教主就任奉告祭 並びに

布教七十年記念大祭

をお迎えして

じあいさつ

ご参拝おめでとうございます。

本日は、天地金乃神御大祭・教主就任奉告祭、並びに、加治木教会布教七十年記念大祭をお仕えさせていただきます。

このたび、前教主金光平輝様には三月二十六日に任期満了を迎えられてご退任になられ、そのお跡を金光浩道様が三月二十七日に、教主にご就任になられ、本部広前の御取次の御用をご継承になられ、まことにめでたく有り難いことに存じます。

*

金光教加治木教会は、最初大正十四年に甘木教会より平島只助師がご布教され、道は根付きかけていりましたが、昭和六年に奥様平島房代姫がお国替えになり、昭和十九年に平島只助師がお国替えされ、お志半ばにして布教が途絶え、教会はいったん閉じられてしまいました。

そうして、空襲で家屋が消失してはまだバラック建ての家屋の多い戦後の傷跡残る加治木の町に、昭和二十六年、甘木教会より矢野政美大人が、再び布教を開始されました。

平島只助大人が御用しておられた時の信者に通知を出してもほとんど参拝はなく、月例祭のお供え

金光教加治木教会



昭和35年頃の加治木教会
(松田モト氏の借家)

※「いっしん」6月号は、記念祭で、前後御用多忙のため、発行できませんでした。HPには記念祭のパンフレットを代わりにアップさせていただきました。

物に困り、海岸で貝を掘り山でフキを採ってお供えし、遂には食事にも事欠くことになり、政美大人は晩年「食うつ食わんつじゃなかつたばい、食わんつ食わんつじゃったばい」と語っていました。

そのため、布教三年目には、道が開けぬあまりの厳しさに、親教会の親先生に進退お伺いまでされたことがあります。

そのときの、親教会の親先生の御取次とみ祈りはもとより、母堂矢野クラ刀自のみ諭しは、

「あんだが商売か何かであれば、こゝでは思うように行かないから、他の所に代わるということもよからうが、お道の御用というものはそんなものではないかろうと思う。あんだは甘木を出る時、加治木の土になしていただくという決心で行ったのではなかったのですか。その決心はどうしました。加治木で打って鳴らぬ太鼓は、どこで打っても鳴りません。それを鳴らそうと思えば、太鼓のバチが折れるまで、皮が破けるまで打たせていただければ、必ず鳴ります。あんだが一生かかって道が開けんでも良いではないね。あんだが死んだのち、後をついでくださる人が継ぎやすいようにしておけば、それで良いではないね」

と、泪ながらに励ましてくださった、その中に翻然と御用に対する気持ちが切り替わり、加治木の地で

道の教えを説き、専心人が助かる御用に命を傾けよとの決心と覚悟が決まったのです。

その時を境に、道を求めて教会を探しては参拝して来る人があるようになり、「神も助かり氏子も立ち行く」道が伝わる御用ができて行きだし、今日まで加治木教会の御取次の御用が続いて行くことができるようなことになってまいりましたことは、何と尊く有難いことであるか、神様の深いご神慮・親心のほどを計り知ることができないほどです。

*

今日おかげを蒙らせていただいておりますことは、これひとえに親神様、教祖様の御神徳はもとより、歴代の金光様、歴代の甘木親教会親先生方、靈之神様となられた方々の厚きお祈りとご教導、さらには皆様方のみ祈りの賜でございます。

そのことを厚く深く御礼申し上げますとともに、この布教七十年記念大祭を新たな出発点として、さらに御用におかげを蒙らせていただいておりますいと存じております。

記念祭に際し、いろいろなご不行き届きな点、お詫び申し上げますとともに、今後ともお祈り添えご指導賜りますようよろしくお願い申し上げます。

コロナウイルス感染症の流行のさなかにありながら、ご参拝・御参列下さり、また感染対策にお心

を配られて選擇されながらも御祈念を下さり、まことに有り難いことに存じます。

教会長 矢野 章



平島只助嚴廼正明聡根彦



平島房代美道別姫



昭和6年、平島房代姫お国替えの時に奥津城が建立された



平成13年 矢野政美大人お国替え後に奥津城を納骨堂に改修

祭典次第

- 先、 祭員着席
- 次、 開帳行事
- 次、 拝 礼
- 次、 神前拝詞奉唱
- 次、 取次唱詞奉唱
- 次、 祭主祭詞奏上
- 次、 祭主玉串奉奠
- 次、 天地書附奉体
- 次、 甘木親教会
- 親奥様玉串奉奠
- 次、 参拝者代表玉串奉奠
- 次、 神徳賛詞奉唱
- 次、 「神人の栄光」斉唱
- 次、 拝 礼
- 次、 祭員退下



矢野サダ子真心白萩大刀白



矢野政美大人

『神人の栄光』

一、天地は

神のふところ
人はみな
神の愛し子
限りなき
神徳のなかに
生かされる
われ等うれしき

二、人の世に

永久の光を
愛し子に
尽きぬみかげを
誓わしし
教祖の神に
救われる
われ等うれしき

三、神とかみに

真をつくし
人の道
直く行い
世の業を
励みはたらき
勇みたつ
われ等うれしき

四、

親神の
御威光を称へ
生神の
教を仰ぎ
神と人の
栄ゆく道を
守りつぐ
われ等うれしき

11:00

ご 祭 典

11:50

立教神伝奉読・前 講
多良木教会長
梅木博光先生

12:10

ご 教 話
甘木親教会長
安武道義親先生

(※直会配布)